

【提案シートの内容】	生徒からの質問	【質問に対する市長の考えなど】	担当課
<p><b>【一色町（佐久島）あさりについて】</b>                      一色干潟は、三河湾最大の干潟でアサリ漁業が盛んに行われています。干潟やその少し沖合いの海では、アサリやバカガイなどの二枚貝、ノリの養殖、クルマエビ、カニなどが獲れ、三河湾の中で最も重要な漁場となっています。愛知県は、アサリの漁獲量が全国1位で、中でも一色干潟は、愛知県の漁獲量のうち7割を占めているそうです。しかし、水揚げ日本一を誇る愛知県のアサリ漁が、今、深刻な不漁に陥っていることを知りました。2008年から2018年の間で、県内のアサリの漁獲量は4分の1以上減少し、今後さらに減少する可能性があるとのこと。漁獲量減少の理由のひとつには、アサリなどを捕食する「カイヤドリウミグモ」や「ツメタガイ（外来種）」の増加があり、外来種の効果的な駆除の対策が見つかりません。また、漁業就業者の高齢化も重なり、西尾市の水産業はピンチの状態です。</p> <p>海はつながっているもので、西尾市だけが苦しい状況ではないと思います。隣の蒲郡市では、新しく漁業の仕事に就きたいと考えている人たちを対象に研修を受けていただける環境を提供する「新規漁業就業者支援事業」を行っています。そのため、新規漁業就業者が、蒲郡市だけ愛知県内で大きく増加しています。また、干潟保全の取り組みを行っている団体がウミグモなどの駆除を行っています。団体の活動だけでは、時間や労力の負担も大きく限界があると思います。</p>	<p><b>【質問1】</b>                      都市計画マスタープランという計画を見ました。市は、一色干潟などの自然環境の整備を行っているようですが、具体的にどんな活動をしていますか。</p>	<p><b>【市長】</b>                      一色干潟などの自然環境の整備は、愛知県が中心となり行っています。具体的には、砂や石などを干潟に新しく入れ、海底のヘドロを減らすよう取り組みを行っています。大切なことは、アサリが生息できる環境を整えることです。昨年度は、大体4ヘクタールくらいの広さの干潟を作ってくれています。今年は5ヘクタールくらいの広さの干潟を作ってくれています。</p>	<p>環境保全課                      農林水産課</p>

【提案シートの内容】	生徒からの質問	【質問に対する市長の考えなど】	担当課
<p><b>【提案】</b> 西尾市では2017年度から本格的な駆除活動に取り組んでいるので、県水産試験場の方と協力して、アサリ減少の原因を突き止め、資源回復のための対策をしていく必要があると思います。また、干潟の保全を行っている団体の活動を支援し、市民と一緒に、アサリの外敵を駆除する方法も効果的だと思います。蒲郡市の取組は参考になると思うので、他県や他地域から漁業に興味がある人を募集し、漁業関係に就職した人には、市独自の漁業支援制度を設け、若い人をはじめ多くの人に就職してもらってはどうか。蒲郡市のように漁業就業者の数が増え、漁業が再び盛んになり、海も環境もよくなると思います。これらの取組を行うことで、アサリを食べる外敵が減り、採貝や採藻を仕事としている人たちの収入も安定し、漁業を辞めてしまう人が少しは減ると思います。また、アサリは、西尾市の特産品（地域資源）のひとつです。西尾で獲れたアサリは、名古屋などではとても高く取り扱われ、高級料亭で使われると聞いたことがあります。もっと、多くの人たちに、西尾で獲れたアサリの美味しさを知ってもらいたいと思います。ウミグモなどを駆除する時には、船のガソリン代や駆除するための道具の購入など多額の費用がかかると思いますので、市独自の漁業支援制度を設けたり、活動団体を支援する必要があります。このままでは、西尾市の水産業が衰退してしまうと思いますので、早急に対応を考えて欲しいです。</p>	<p><b>【質問2】</b> 第一次産業である漁業就業者数が全国的に見ても減ってきていますが、西尾市ではどのような対策を考えていますか、また、漁業就業者の高齢化が進んでいますが、その対策についても教えてください。</p>	<p><b>【市長】</b> 新しく漁業に就きたいという人を支援することも大事ですが、アサリが獲れなければ、漁業をやろうと思っても生活が成り立ちません。市としては、アサリが獲れるようにすることを第一に考えています。 具体的な取り組みのひとつは、28年度からウミグモという害虫生物の駆除を行っています。3年間作業を継続しているもので、一定の成果が出ていると思っています。その他、干潟の保全を目的として、アマモの繁殖のための活動やアサリのエサとなるプランクトンを増やすために、海中のリンの濃度を少し上げ、アサリのエサとなるプランクトンが増えるように作業しています。そのため、昨年度に比べると少しは状況が良くなっていると聞いていますが、5・6年前と比較すると回復率はまだまだ低い状態です。少しずつ成果は出ていますので、アサリが獲れるように今後も効果的な対策を継続して行っていきたいと思っています。</p> <p><b>【産業部長】</b> 西尾市は、「漁業イコールアサリ」というようにアサリの採捕がメインです。蒲郡市は本市ほどアサリの採捕は行っておらず、新規漁業就業者が増えているのは、魚を獲る漁師です。西尾市もアサリ漁業者を増やしたいと考えていますが、アサリを獲るには、採捕するための権利が必要となります。誰でもアサリ漁業者になれるわけではなく、採捕の権利関係もあり、安易にアサリ漁業者を増やすことはできないことになっています。今の状態は、アサリが獲れないために、アサリ漁業者の生活も立ち行かない状況となり、漁業を廃業してしまうぐらいの状況ということが問題です。今、従事しているアサリ漁業者を減らさないようにすることが私たちの役目です。</p>	<p>農林水産課</p>
	<p><b>【質問3】</b> アサリ資源の回復に向けて、西尾市の今後の対策方針を教えてください。</p>	<p><b>【市長】</b> 平成27年頃は、アサリ減少の原因の一番がウミグモと言われていましたが、昨今では、下水道設備が発展し汚水が海に流れなくなってしまうことで、アサリが生きていくための栄養分が摂れなくなってしまいました。海がきれいになったことがひとつの原因でもあります。また、温暖化によって海水の温度が高温になったこともアサリが少なくなった原因のひとつだと言われています。アサリがいなくなれば、アサリを取る漁業者は衰退します。そうならないために、干潟の環境保全や害虫生物の駆除、海中の栄養分が増えるような取組など、今後も調査研究を継続し、漁協関係者と連携、協力し対応していきたいと考えています。</p>	<p>農林水産課</p>